

編集後記

暖冬ということですが、寒暖の差が激しい冬となり、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので、この一月十五日で渡辺澄夫先生の一周忌を迎えることとなりました。まだ、地方史の例会などに行くと、「よお、元気にしちよるか」と後ろから先生の声が聞こえてくるような気がします。

まず春に追悼号一号で、大分県地方史とともに歩んだ先生の研究足跡を偲びました。本号は追悼号二号として、先生の育てた地方史、「渡辺史学」を受け継ぐ人々が原稿を寄せ、先生一周忌の御霊前に、研究成果を捧げるものです。

多くの方々のご投稿予定がりましたが、期日があり、緒方英夫・西別府元日・乙咩政巳・鹿毛敏夫・橋本操六・佐藤満洋・吉田豊治・外園豊基・長順一郎など八氏に限定されましたが、次号にも用意された原稿が掲載されると思われます。本号は渡辺先生の追悼とともに、その先生の思いを受け継ぎ、新たなる大分県地方史を築く再出発の第一号となるものと確信しています。本年も年頭に当たり、会員諸氏の活発なご活躍を祈念したいと思います。